

松本秀峰オーケストラ部

結束力で2年連続出場

松本秀峰中等教育学校（松本市埋橋）のオーケストラ部が、東京・日本青年館で二十六～二十九日に開かれる「全国高校選抜オーケストラフェスタ」で演奏を披露する。中高一貫校として開校した二〇一〇年に創部され、活動は五年目。入部してくる部員は初心者が多く、一人一人が昨年より成長した姿を見せるつもりだ。

（成田嵩憲）



古原教諭の指導を受けながら練習を続けるオーケストラ部員ら。松本市の松本秀峰中等教育学校で。

東京で26日から 全国高校選抜フェスタ

フェスタでの演奏は二年連続で、部員六十人のうち四十四人が出場を予定。昨年は「入部当初は自分の演奏でいっぱいだったけど、ガロの結婚」序曲など今は強弱や緩急を意識二曲を演奏したが、リズムでリズムで技術が求められるベートーベンの「交響曲第七番第一楽章」の一曲に絞った。

フェスタは全国高校練習は授業が終わった後の週三回で、一回が主催し、連盟に加盟は六十～九十分ほど。してあれば出場でき全体練習の時間は少ない。

めだが、平日朝や休日 今回は全国から七十の自主練習で補って二チームが出場し、県る。部員同士で気軽に内からは同校のほか、教え合う雰囲気がある。長野、上田、小諸の各り、顧問の瀬川伸教諭 校と、屋代、須坂、長は「結束力がある」と野西で構成する合同チームが演奏を予定す話す。

十七日にあった練習。

では、小節ごとに各パートを確認しながら進めた。弦楽器と金管楽器が順に奏でる掛け合いでは、「もう少し音を小さく」「長さに気を付けて」など顧問の古原さよ子教諭の指導の下、部員たちは集中しながら美しい音色を響かせた。